

■このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取付説明書の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。内容を良くご理解いただき、本書の内容(指示)にしたがってください。

INDEX

施工を始める前に	2
各部の名称・部材数量の確認	3
構造図と納り図	4
規格寸法図	5

施工方法

1 束柱・大引の施工

- 【1】基礎の施工 15
- 【2】束柱の加工 15
- 【3】大引に幕板固定金具を取り付けます 16
・大引を連結する場合 17
- 【4】大引に束柱を取付けます 17
- 【5】基礎に束柱を固定します 18

2 床板の施工

- 【1】床板の取付け 19
- 【2】最終床板の取付け 19

フェンス付デッキをご購入の場合は必ず先に、フェンスに同梱されている説明書をご覧ください。

3 幕板の施工

- 【1】幕板のマーキング 20
- 【2】幕板下穴加工 20
- 【3】幕板の取付け 20
- 【4】幕板コーナーキャップの取付け 21
- 人工木材の特性と使用上のご注意 22
- お手入れ方法とメンテナンス 23
- 保証書 24

◆施工を始める前に◆

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は一般住宅の一階相当分施工用です。それ以外の場所への取付けはしないでください。

- ①部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
 - ・当製品は、木粉入り高密度樹脂製のため、熱変形することがあります。取扱いには十分注意してください。
 - ・平らな場所に平置きしてください。桟木の上に乗せますと、反りが発生する場合があります。
 - ・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
 - ・製品の上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- ②設置場所を確認してください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。
熱排気による部材の変形・劣化のおそれがあります。
- ③人工木は表面に研磨加工処理を施してありますので、部材の施工方向によっては色調に濃淡がでます。
- ④正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ⑤製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- ⑥施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。
- ⑦市販の研磨紙を利用する際は、#24～40のサンドペーパーを用いてください。
- ⑧施工業者様は施工後、取付説明書を施主様にお渡しください。
- ⑨取付説明書は大切に保管し、必要な時に読みください。

■基礎について

デッキを設置する場所がコンクリート等では無い場合は、基礎石を設置し水平レベル出しをしてください。（P15 参照）

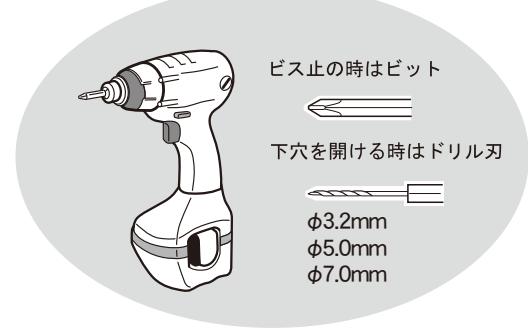


基礎石設置の作業が不十分だったり、水平レベル出しをせず取付けをしますと基礎石の浮きが発生する可能性があり、製品変形の恐れがあります。

〈組立・施工に必要な道具〉

●電動ドライバー

インパクトドライバーをお勧めします。



ビス止の時はビット



下穴を開ける時はドリル刃

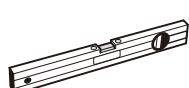


φ3.2mm

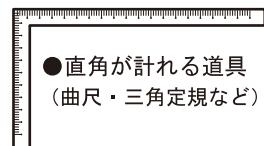
φ5.0mm

φ7.0mm

●水準器(水平器)



デッキの水平レベル出しをする時使用します。



●直角が計れる道具
(曲尺・三角定規など)

●軍手・皮手袋等

電動ドライバーをご使用の際は、巻き込まれる危険がありますので軍手などを使わず素手でお使いください。



●水糸



※水糸をはる時に必要な
適宜な資材も
ご準備ください。

◆施工前に必ず、部材数量をお確かめください。

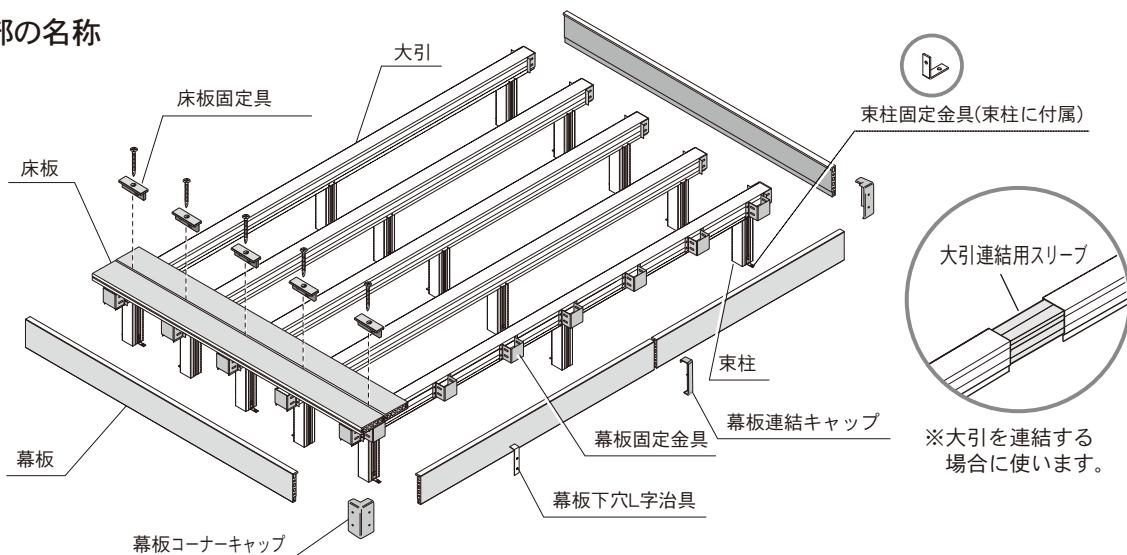
※ご面倒でも組立を始める前に部材の数量をご確認ください。

万一、不足している部材などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※部材に破損などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※施工開始後のご連絡ですと、ご対応に時間を要する為、施工が中途になってしまいますがご了承ください。

■各部の名称



※大引を連結する場合に使用します。

■デッキ部材数量

略図	呼称	サイズ	1.0間			1.5間			2.0間		
			3尺	6尺	9尺	3尺	6尺	9尺	3尺	6尺	9尺
	床板900	145×30×900mm	12			18			24		
	床板1800	145×30×1800mm		12			18			24	
	床板2700	145×30×2700mm			12			18			24
	幕板890	145×30×890mm	2			2			2		
	幕板1790	145×30×1790mm	1	3	1		2		2	4	2
	幕板2690	145×30×2690mm			2	1	1	3			2
	大引1795	74×90×1795mm	3	5	7						
	大引2695	74×90×2695mm				3	5	7			
	大引3595	74×90×3595mm							3	5	7
	大引連結用スリーブ	69×70.5×200mm				※大引を連結する際に使用します。					
	固定束柱280 ※床面高さ385mm	65×65×280mm	6	10	14	9	15	21	9	15	21
	調整束柱2848 ※床面高さ385～585mm	65×65mm ※調整長さ280～480mm									
	幕板固定金具	105×60×75mm	11	15	19	13	17	21	15	19	23
	床板固定具1004 (10入)	40×16×16.6mm	4	6	8	6	9	12	7	12	17
	幕板連結キャップ	25×35×150mm							1	1	1
	幕板固定用ねじ (10入)	Φ4.2×32mm							1	1	1
	幕板コーナーキャップ	75×75×152mm						2			
	幕板下穴L字治具	18×15×120mm						1			

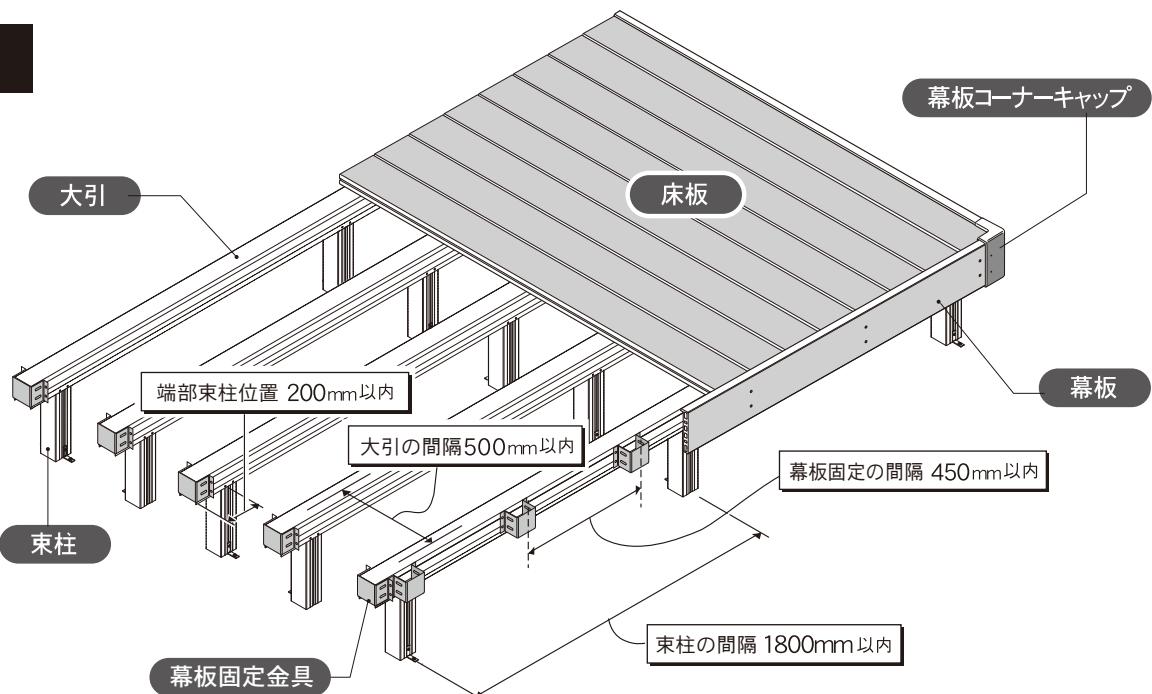
構造図と納り図

※フリー設計の場合は構造図と納り図面を参考に位置出しをしてください。

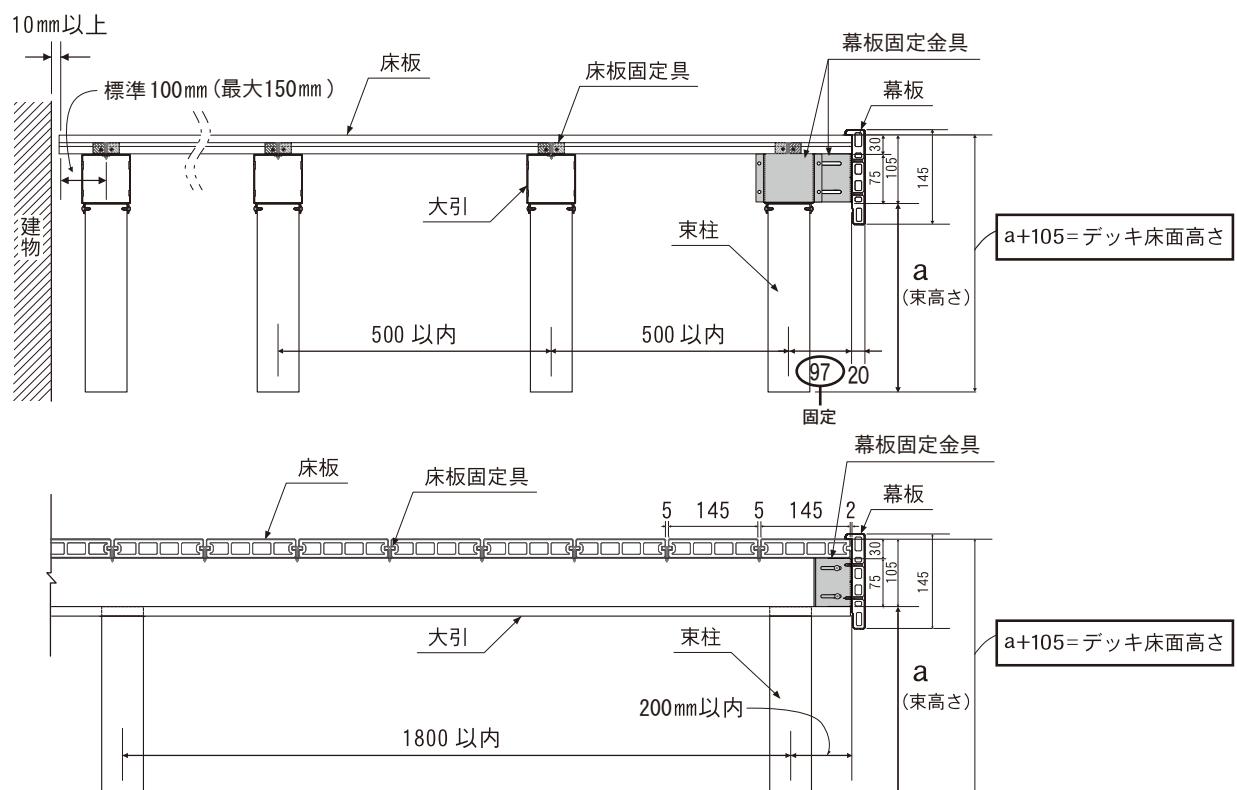
※別売りのフェンスを取り付ける場合は、必ずフェンス柱の下に大引を配置します。

同時にフェンス取付説明書を参照してください。

構造図



基本納まり図面



規格寸法図

■1.0間(1839mm)×3尺(920mm) ····· 6P

■1.0間(1839mm)×6尺(1820mm) ····· 7P

■1.0間(1839mm)×9尺(2720mm) ····· 8P

■1.5間(2739mm)×3尺(920mm) ····· 9P

■1.5間(2739mm)×6尺(1820mm) ····· 10P

■1.5間(2739mm)×9尺(2720mm) ····· 11P

■2.0間(3639mm)×3尺(920mm) ····· 12P

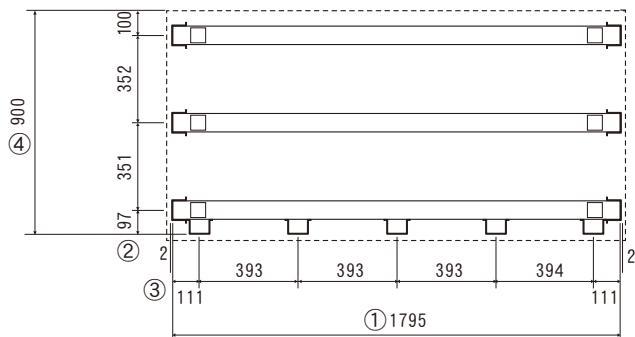
■2.0間(3639mm)×6尺(1820mm) ····· 13P

■2.0間(3639mm)×9尺(2720m) ····· 14P

規格寸法図 仕上サイズ：1.0間(1839mm)×3尺(920mm)

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

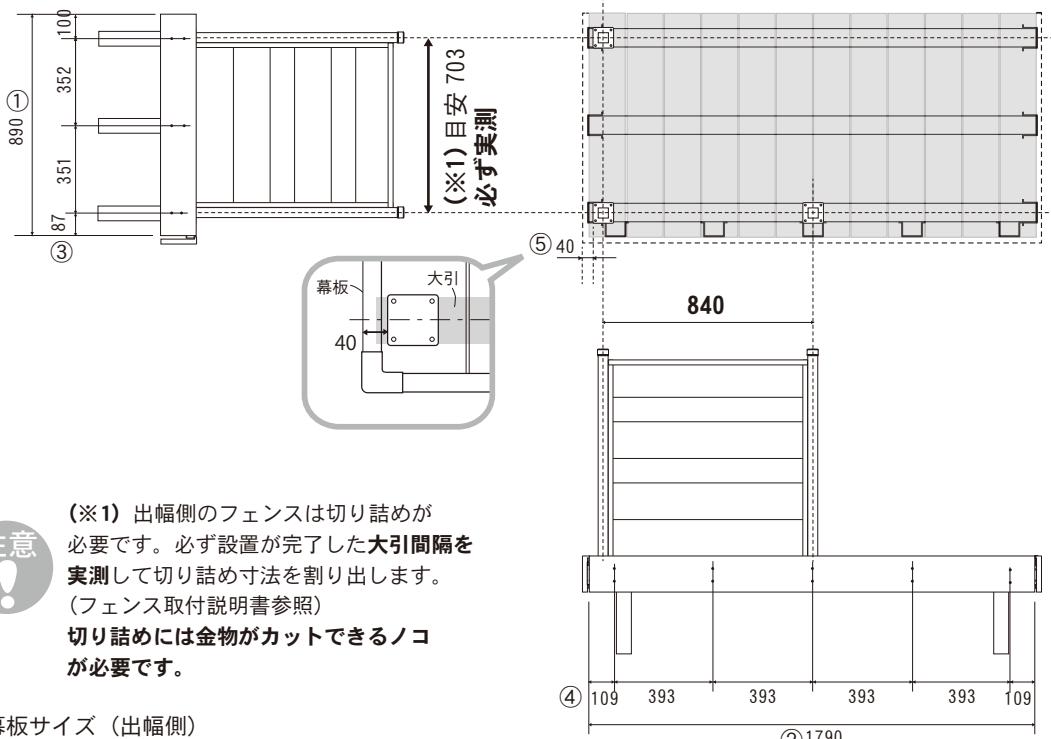
基本構造



- ①大引サイズ
- ②大引間隔
- ③横幅面 幕板固定金具位置
- ④床板サイズ
- ⑤横幅面 束柱位置



フェンス付図面 ※人工木フェンスB 2枚の例



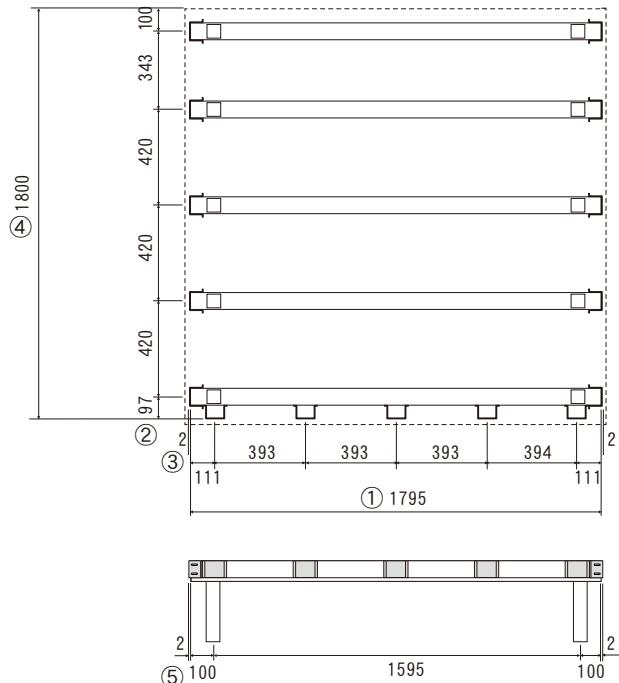
(※1) 出幅側のフェンスは切り詰めが必要です。必ず設置が完了した**大引間隔を実測**して切り詰め寸法を割り出します。
(フェンス取付説明書参照)
切り詰めには金物がカットできるノコが必要です。

- ①幕板サイズ（出幅側）
- ②幕板サイズ（横幅側）
- ③幕板固定ねじ位置（出幅側） ⑤柱取付位置（横幅側）
- ④幕板固定ねじ位置（横幅側） ※⑤はフェンス付の場合

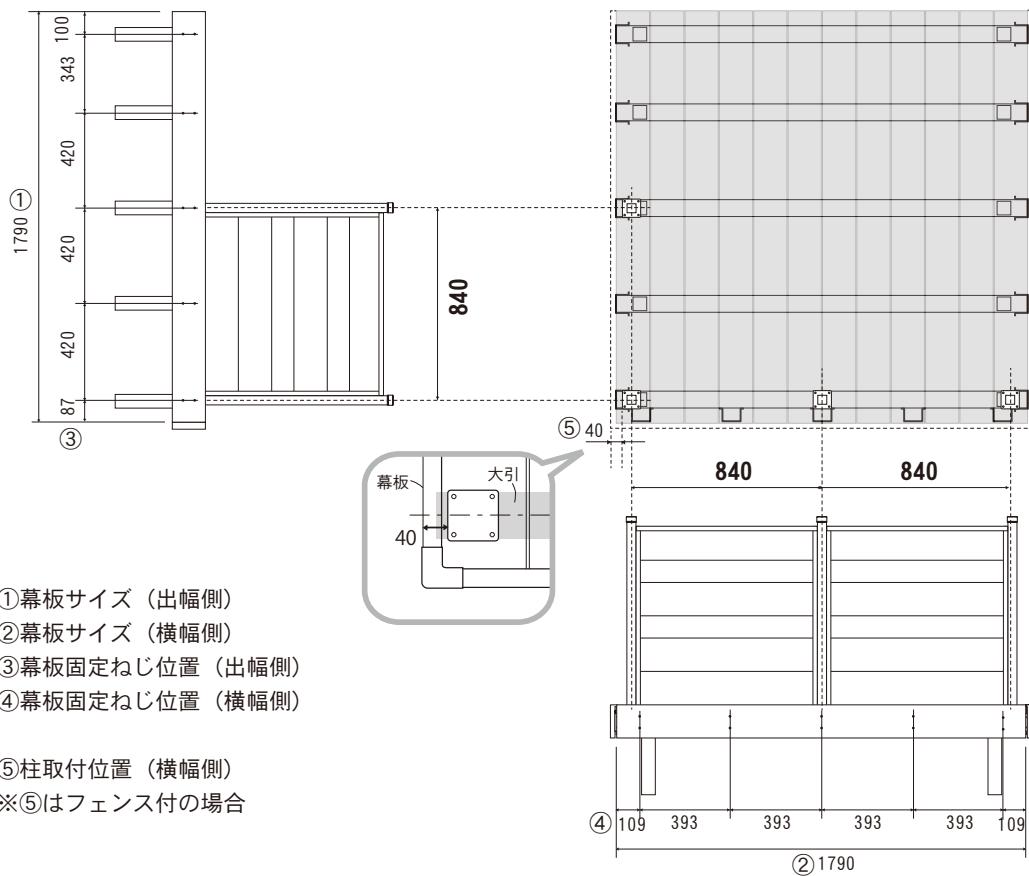
規格寸法図 仕上サイズ：1.0間(1839mm)×6尺(1820mm)

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造



フェンス付図面 ※人工木フェンスB 3枚の例

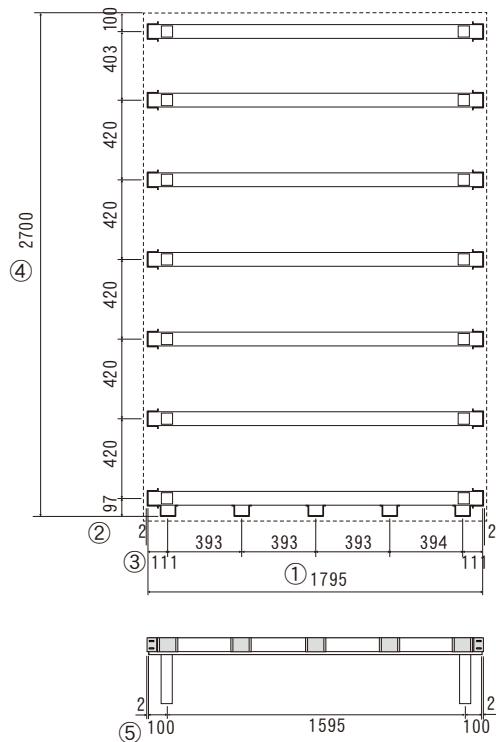


規格寸法図 仕上サイズ：1.0間(1839mm)×9尺(2720mm)

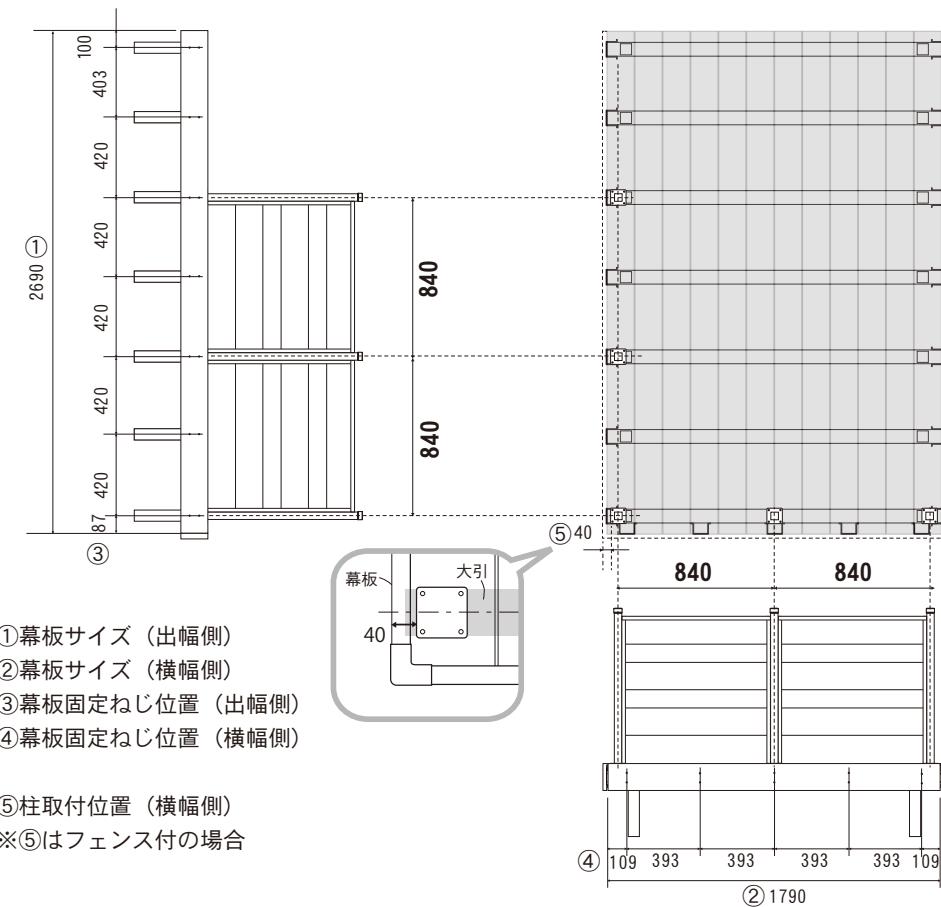
※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造

- ①大引サイズ
- ②大引間隔
- ③横幅面 幕板固定金具位置
- ④床板サイズ
- ⑤横幅面 束柱位置



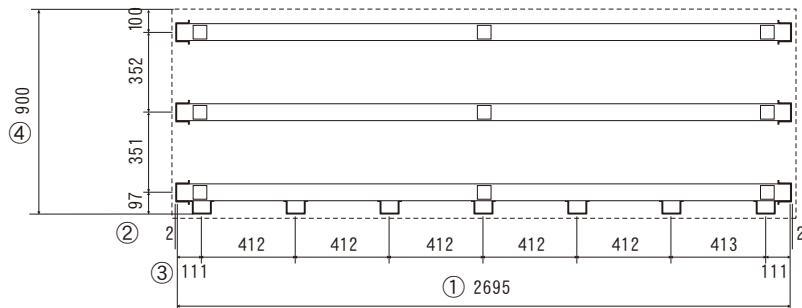
フェンス付図面 ※人工木フェンスB 4枚の例



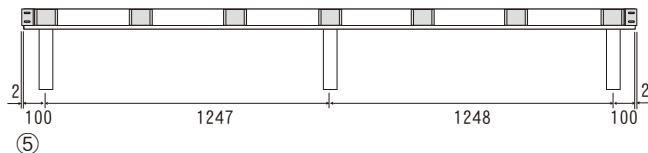
規格寸法図 仕上サイズ：1.5間(2739mm)×3尺(920mm)

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

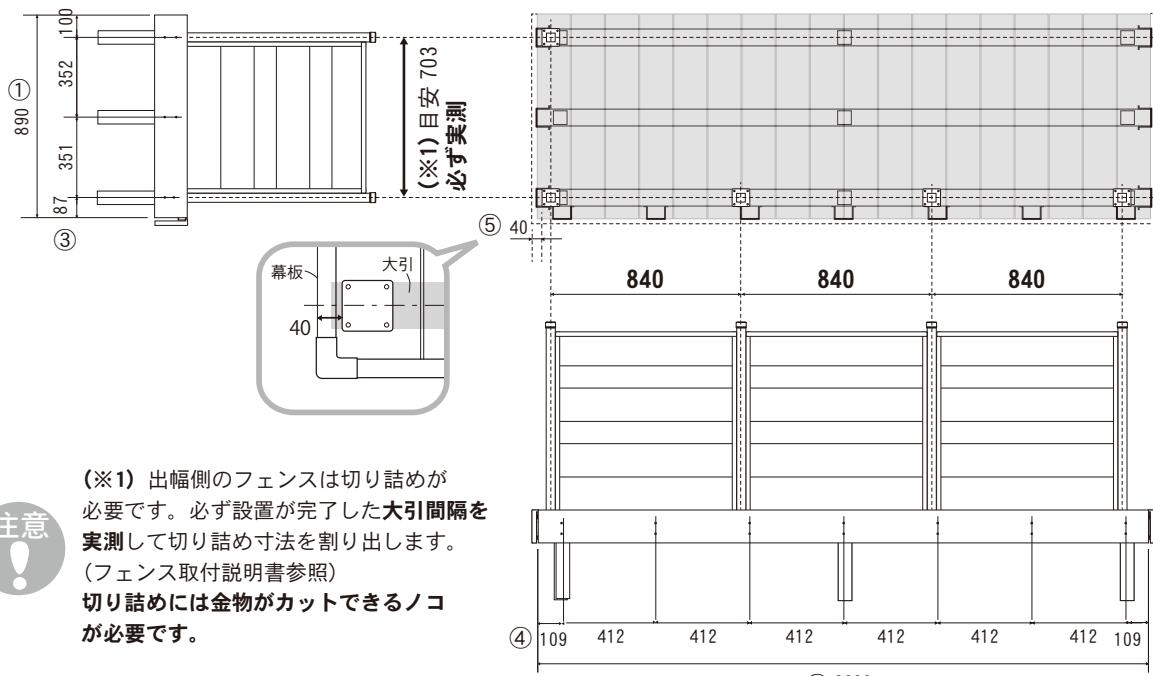
基本構造



- ①大引サイズ
- ②大引間隔
- ③横幅面 幕板固定金具位置
- ④床板サイズ
- ⑤横幅面 束端柱位置



フェンス付図面 ※人工木フェンスB 4枚の例



注意！

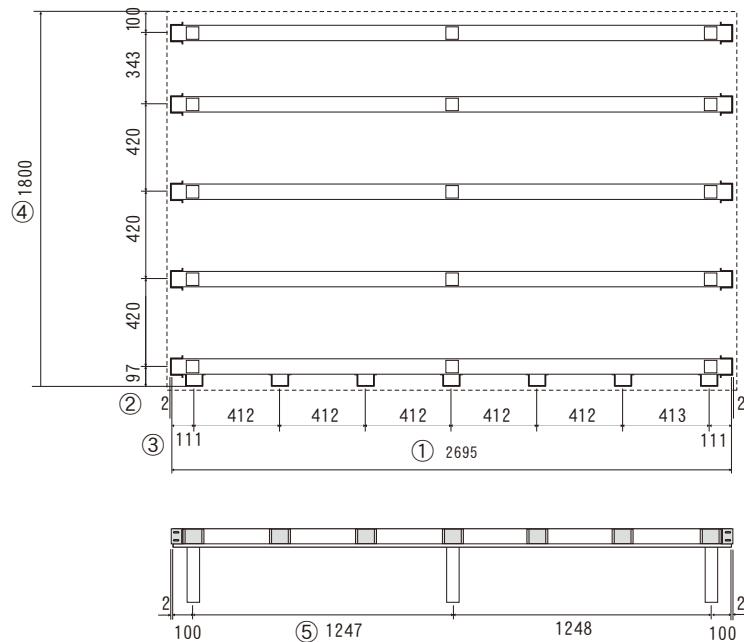
(※1) 出幅側のフェンスは切り詰めが必要です。必ず設置が完了した**大引間隔を実測**して切り詰め寸法を割り出します。
(フェンス取付説明書参照)
切り詰めには金物がカットできるノコが必要です。

- ①幕板サイズ（出幅側）
- ②幕板サイズ（横幅側）
- ③幕板固定ねじ位置（出幅側） ⑤柱取付位置（横幅側）
- ④幕板固定ねじ位置（横幅側） ※⑤はフェンス付の場合

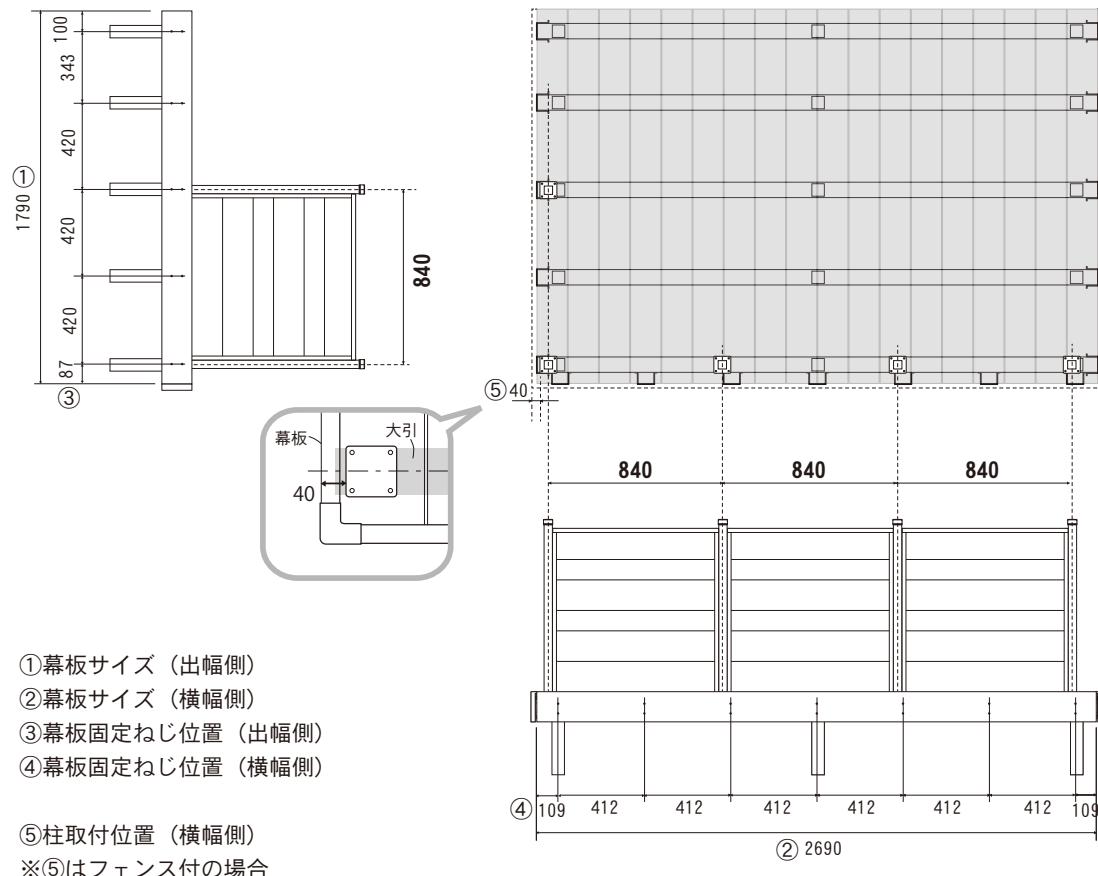
規格寸法図 仕上サイズ：1.5間(2739mm)×6尺(1820mm)

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造



フェンス付図面 ※人工木フェンスB 4枚の例

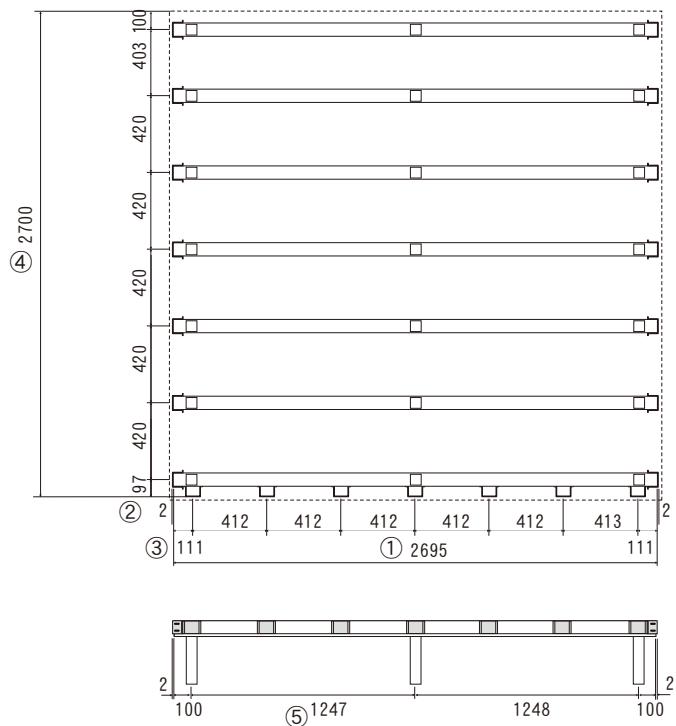


規格寸法図 仕上サイズ：1.5間(2739mm)×9尺(2720mm)

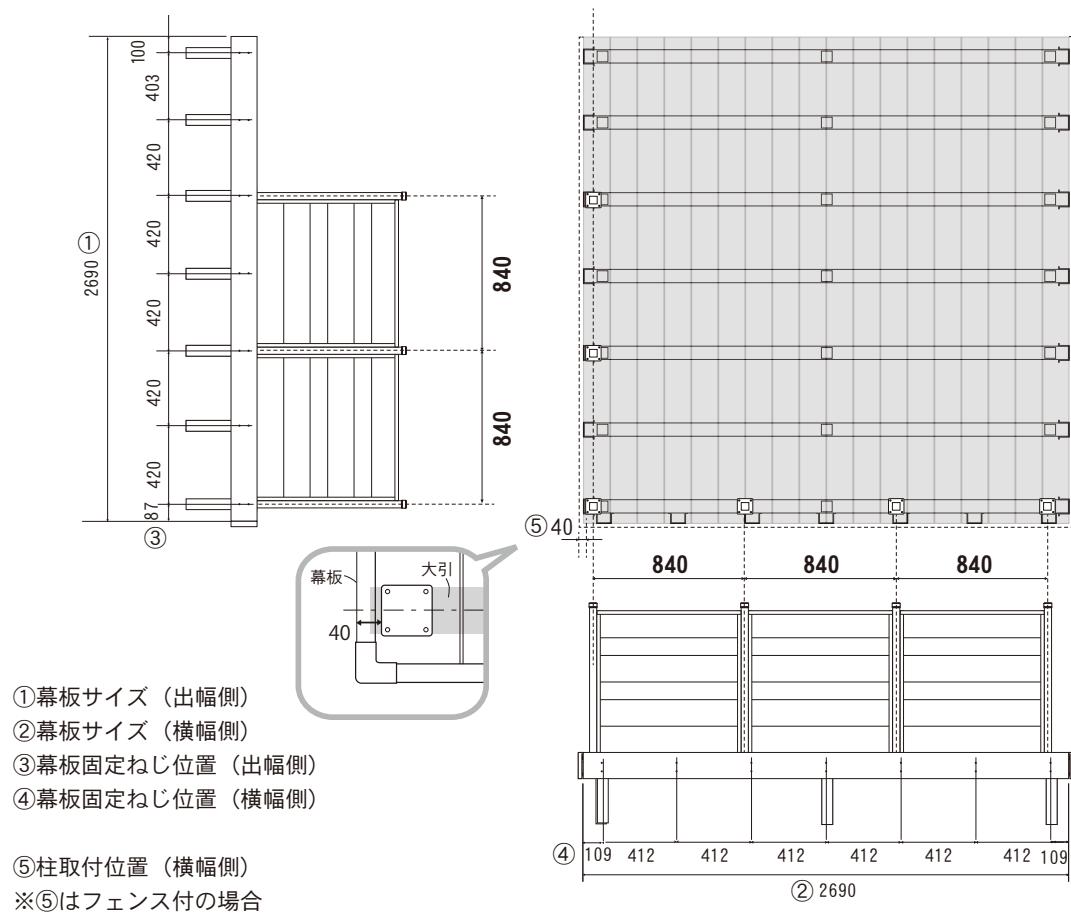
※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造

- ①大引サイズ
- ②大引間隔
- ③横幅面 幕板固定金具位置
- ④床板サイズ
- ⑤横幅面 束柱位置



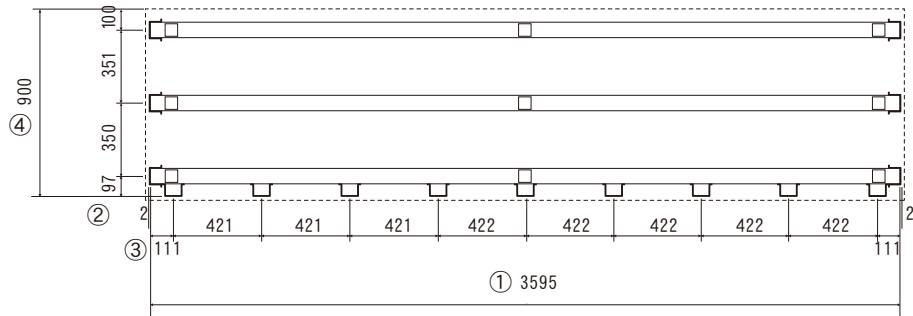
フェンス付図面 ※フェンス5枚の例



規格寸法図 仕上サイズ：2.0間(3639mm)×3尺(920mm)

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造



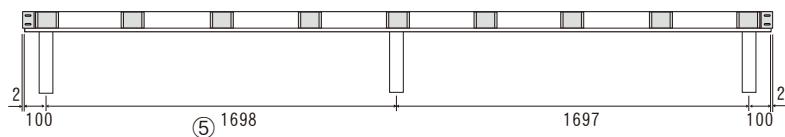
①大引サイズ

②大引間隔

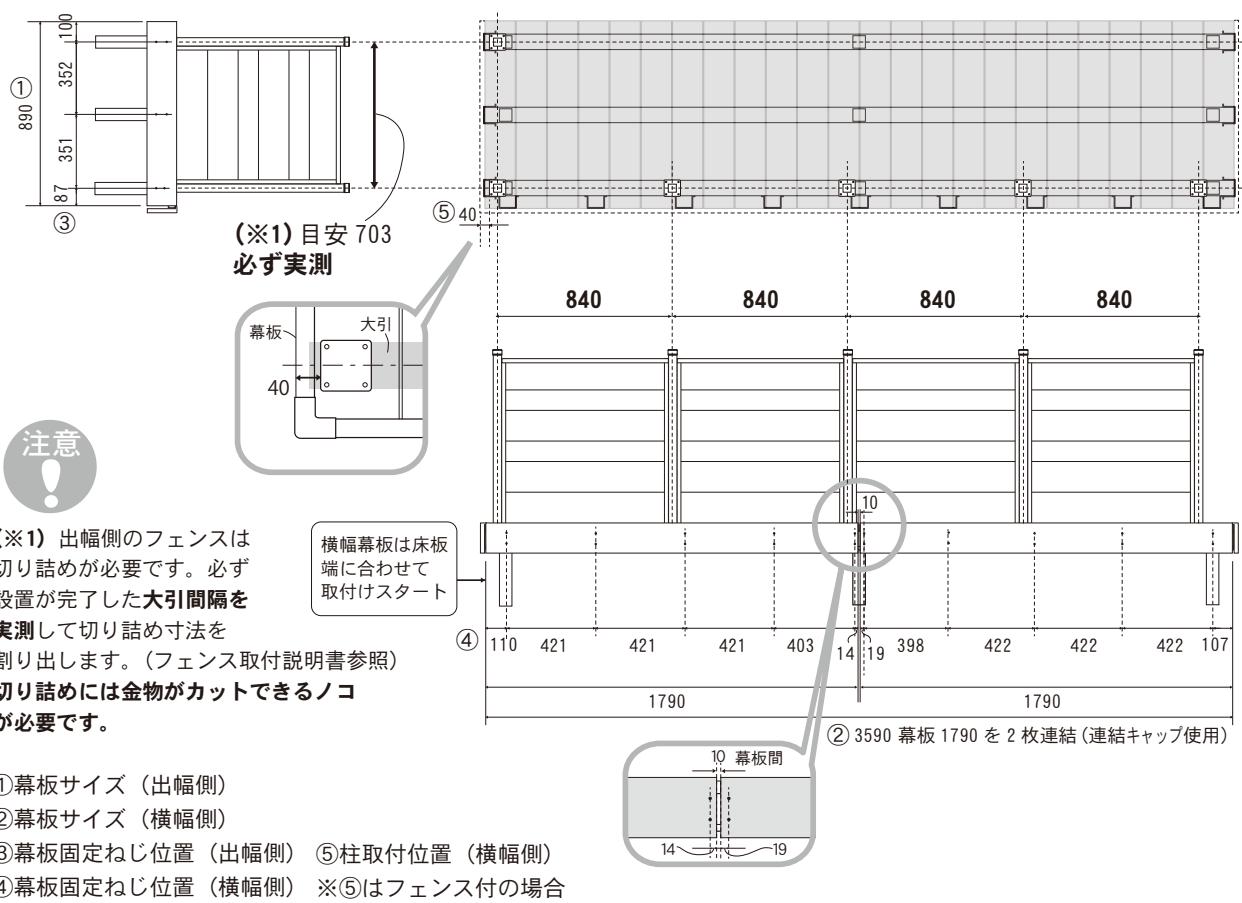
③横幅面 幕板固定金具位置

④床板サイズ

⑤横幅面 束柱位置



フェンス付図面 ※フェンス5枚の例



①幕板サイズ (出幅側)

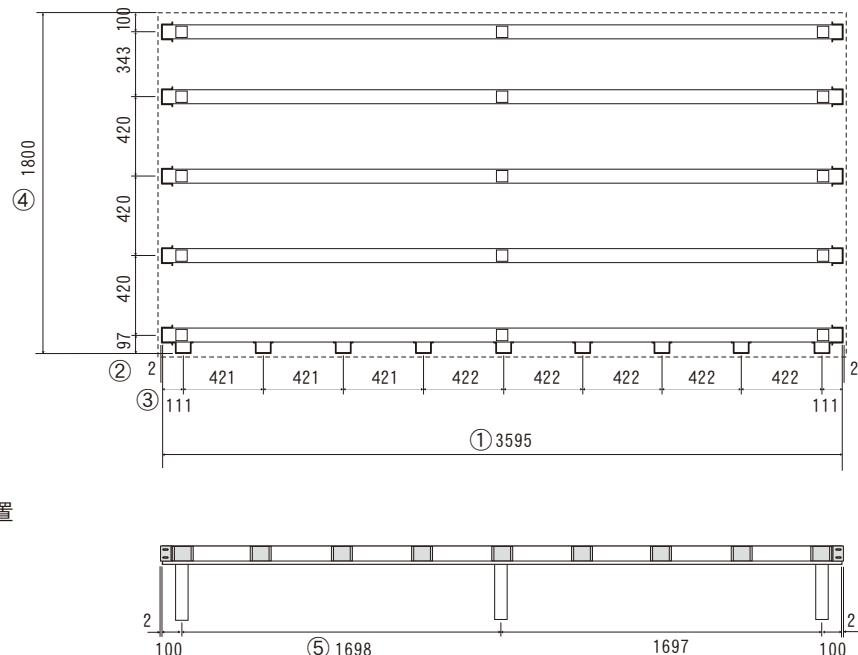
②幕板サイズ (横幅側)

③幕板固定ねじ位置 (出幅側) ⑤柱取付位置 (横幅側)

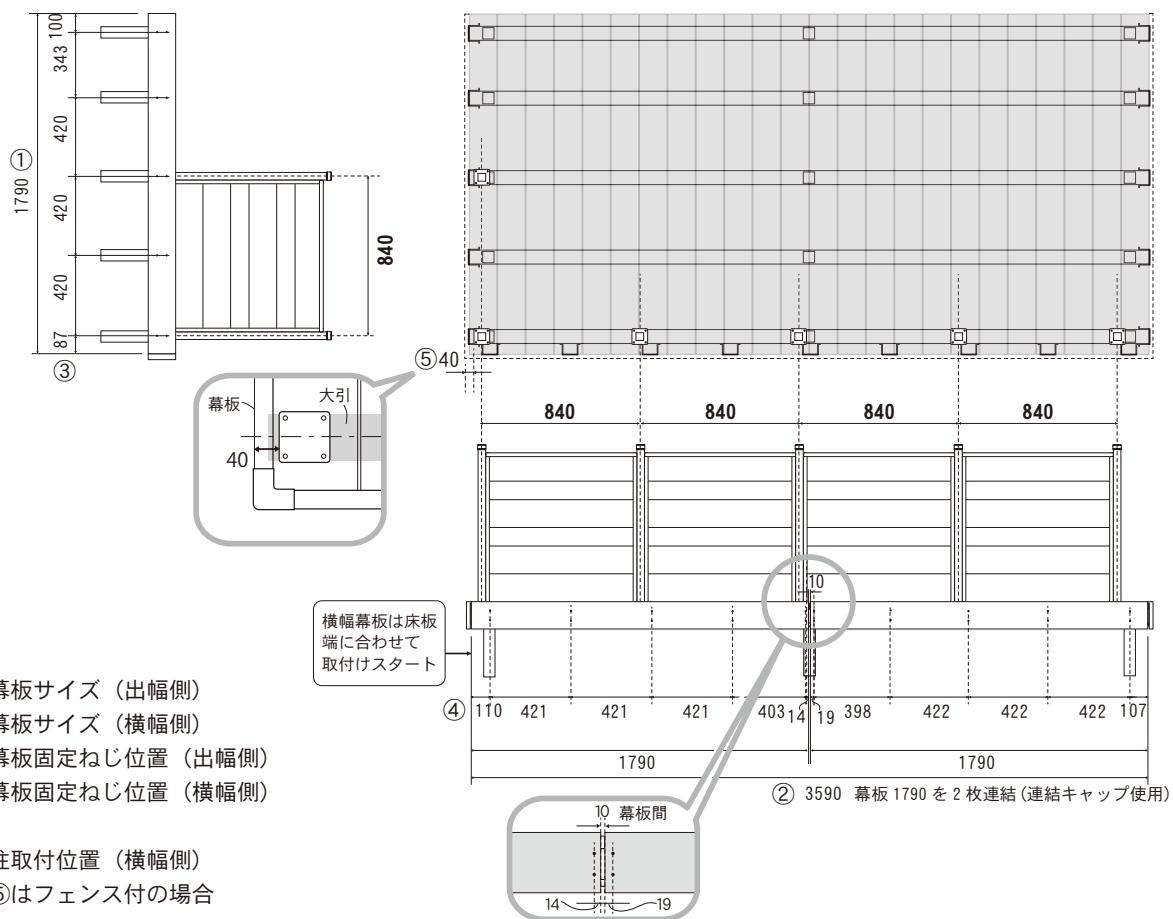
④幕板固定ねじ位置 (横幅側) ※⑤はフェンス付の場合

規格寸法図 仕上サイズ：2.0間(3639mm)×6尺(1820mm) ※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造



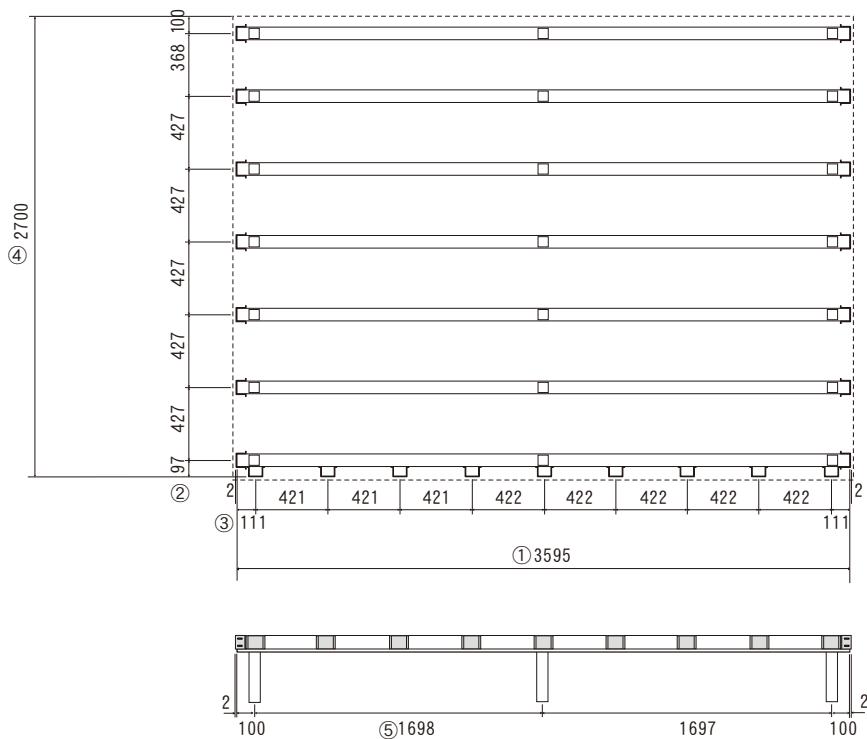
フェンス付図面 ※人工木フェンスB 5枚の例



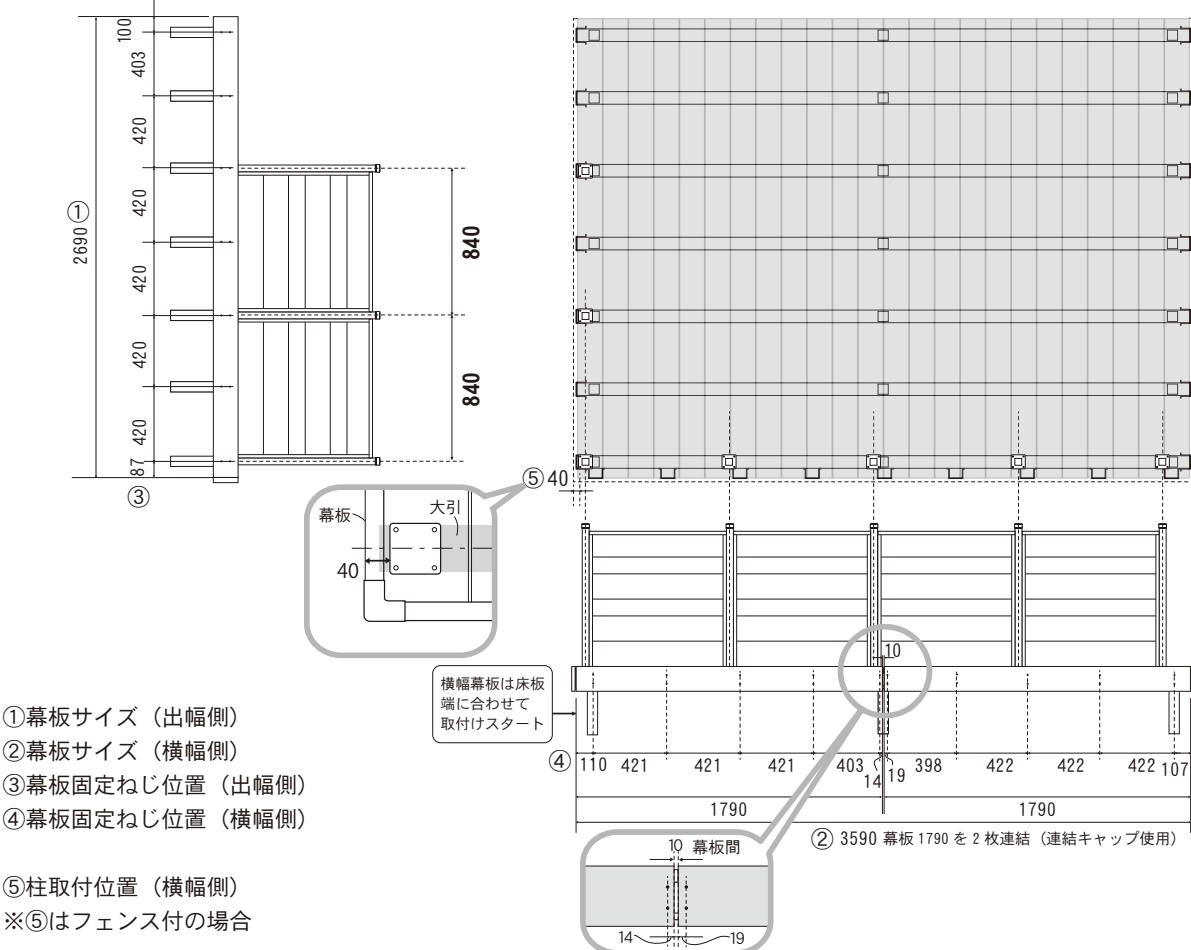
規格寸法図 仕上サイズ：2.0間（3639mm）×9尺（2720mm）※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

※デッキの仕上サイズは若干の誤差が生じます。

基本構造



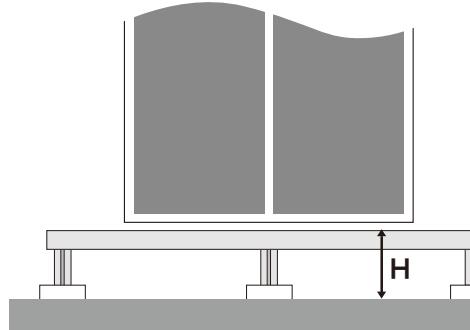
フェンス付図面 ※人工木フェンスB 6枚の例



はじめに

※フェンスを取付ける場合はフェンスに付属している
「フェンス取付説明書」を必ず先にご覧ください。
※この説明書は 1.5 間 6 尺で図解しております。

最初に H 寸法(床面高さ)を決定してください。



Point

設置する場所が窓際の場合は、窓の高さと
デッキの高さをご確認ください。

$$\text{デッキの高さ} + \text{基礎石などの厚み} = \text{H床面高さ}$$



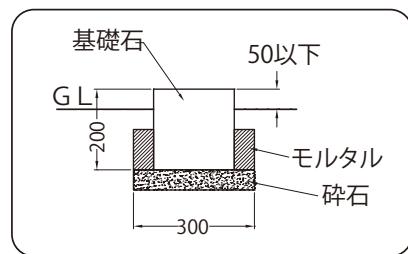
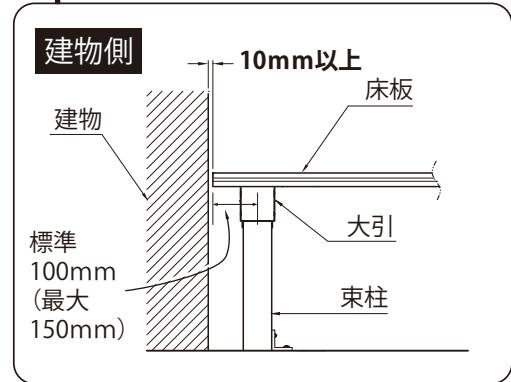
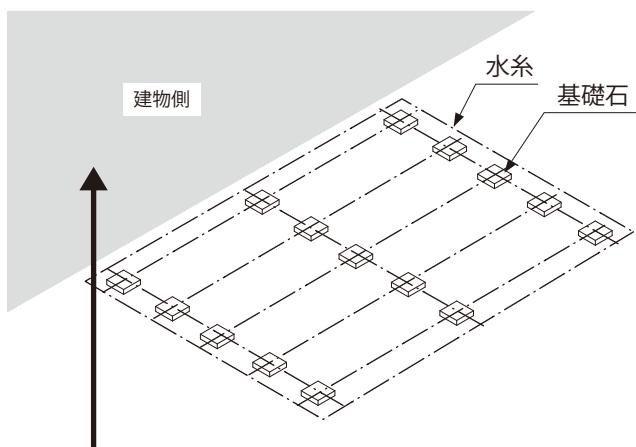
1 束柱・大引の施工

フェンスを取付ける場合は大引間隔が重要です。大引間隔を間違えますと
フェンスの取付けができませんのでご注意ください。P4 ~ 14 「構造図と納まり図」参照。

【1】基礎の施工

※基礎石をモルタルで固める施工をお奨めいたします。

P6 ~ 14 上段「基本構造」で各束柱の位置を参考して、前面と
両側面の水糸に寸法出しをし基礎石の位置を決定してください。



①指定位置に穴を掘り、碎石を敷いて突き固めてください。

Point

この作業が十分でないと、基礎の
ひずみが発生する場合があります。

②基礎石を設置し、レベルを出してください。

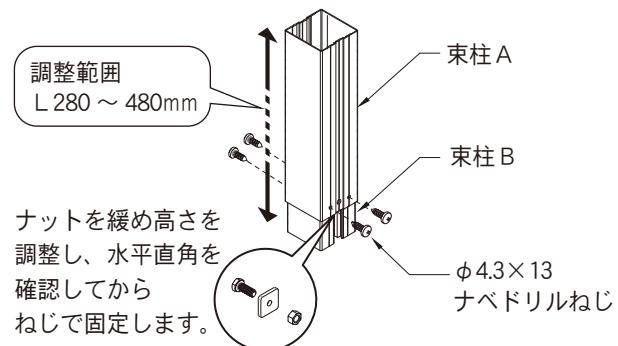
③基礎石のまわりをモルタルで固めてください。

Point

モルタルで基礎を固めないと、基礎の
浮き沈みが発生する場合があります。

【2】束柱の加工

①調整束柱 L2848 をご利用の場合は、デッキ高さに
合わせて長さの調整をします。



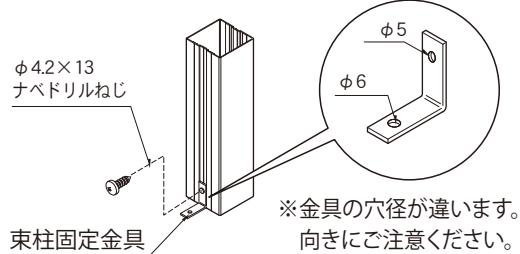
②束柱に束柱固定金具を取付けます。



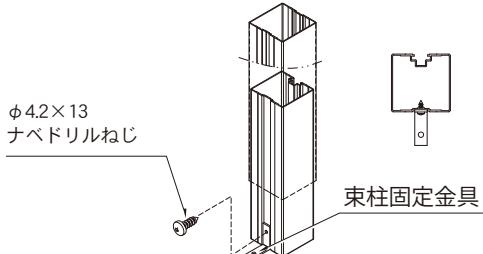
束柱は必ずL字アングルで基礎石に固定してください。
固定をしませんとデッキに歪みが発生する恐れがあります。

注意

■固定束柱の場合



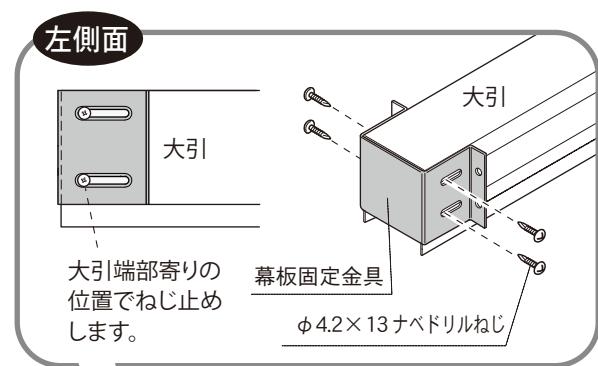
■調整束柱の場合



[3] 大引に幕板固定金具を取付けます。(左側から床板取付けをする場合)

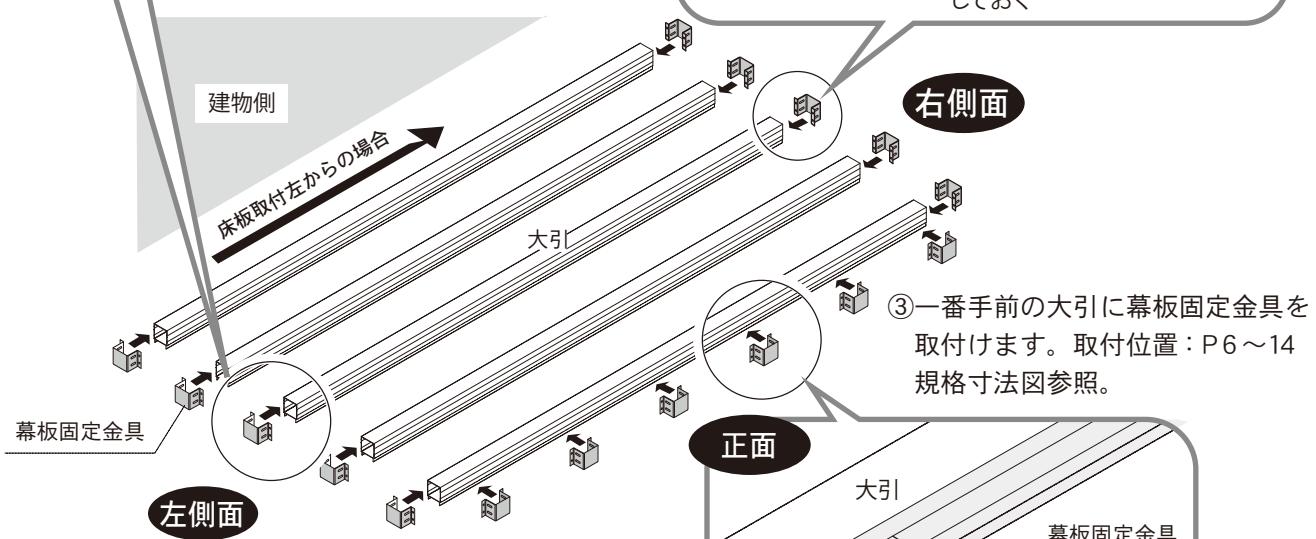
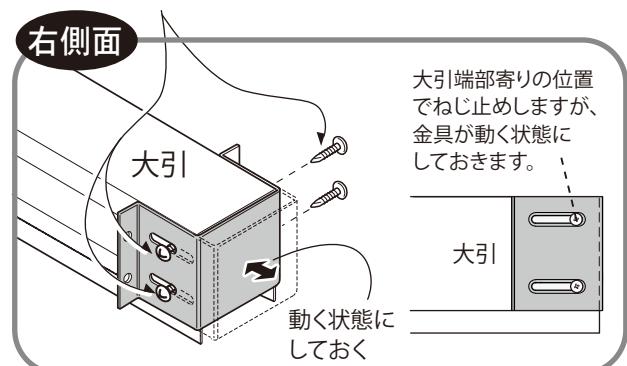
※右側から床板を取付ける場合は幕板固定金具の取付方法を左右逆にしてください。

①全ての大引の**左端部**に
幕板固定金具を取付けます。

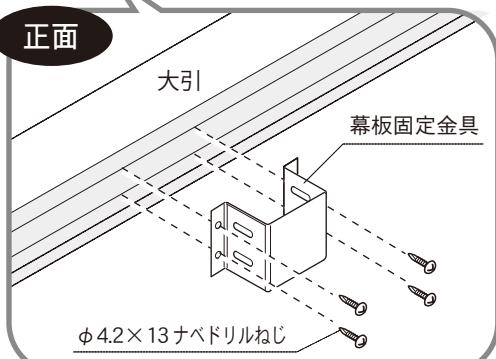


②全ての大引の**右端部**に幕板固定金具を
取付けます。

Point ! **大引右端部** の幕板固定金具はねじを
緩めた状態にしておきます。床板取付後に
位置調整をしてから本締めをします。



※大引を連結する場合は、幕板固定金具を取り
付ける前に連結をしてください。(P17参照)



■大引を連結する場合

デッキを2台連結するなどで、大引を連結する場合

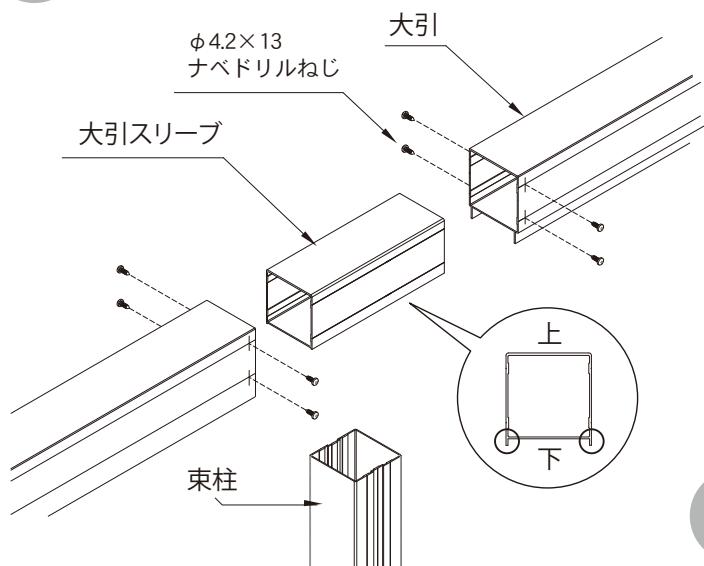
■大引の連結

大引スリーブを大引に挿入してねじで固定してください。

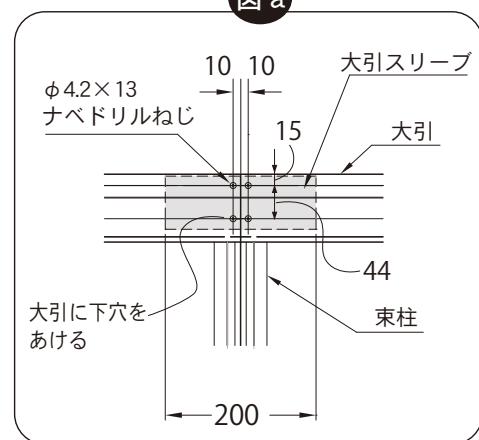


大引の連結部は、束柱の中央上部で突き合わせて固定してください。(図a参照)

大引スリーブの上下を確認してから組み付けてください。

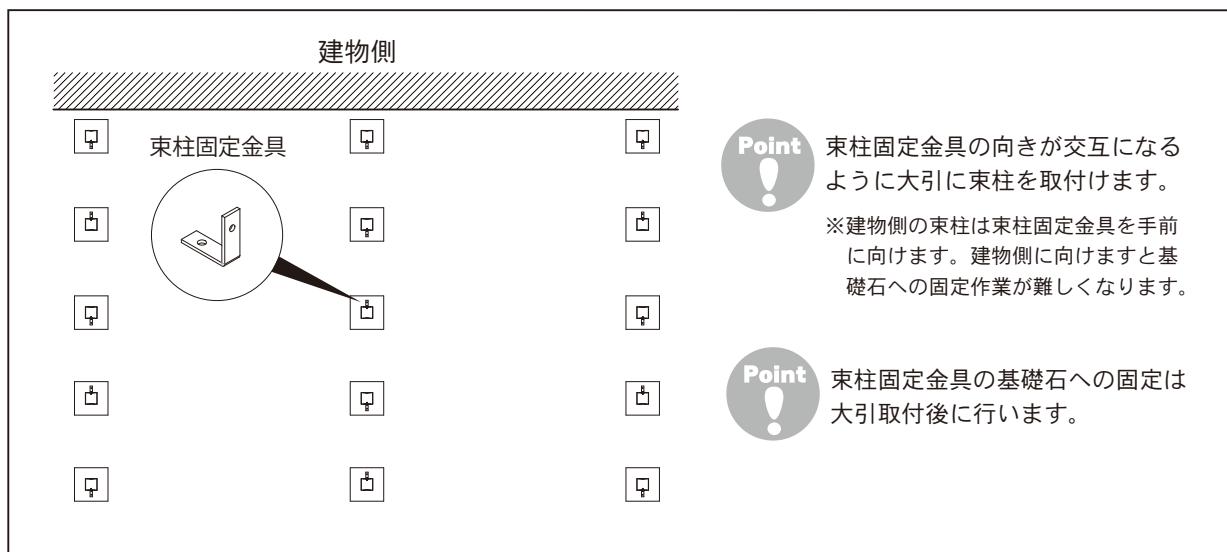


図a

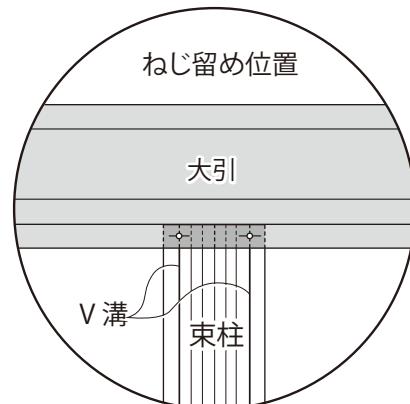
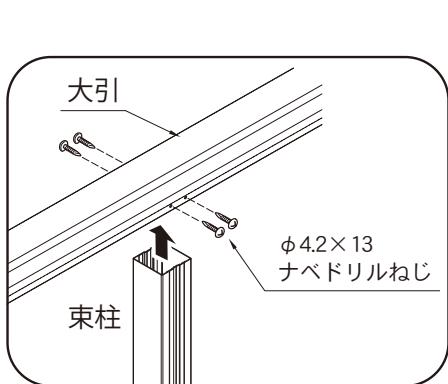


ねじ位置を確認し、大引にΦ5の下穴をあけてねじ止めをします。

【4】大引に束柱を取付けます。



① P 6 ~ 14 上段「基本構造」横幅面束柱位置を参照して、それぞれの大引に束柱を取付けます。



束柱のV溝に合わせてねじ止めねじ位置を確認し、大引にΦ5の下穴を開けてねじ止めをします。

② 束柱の取付けが終わったら、基礎石の上に配置します。

※ P 6 ~ 14 規格寸法図参照



左側端部を揃えてください。



大引は所定の位置に正確に平行に設置してください。



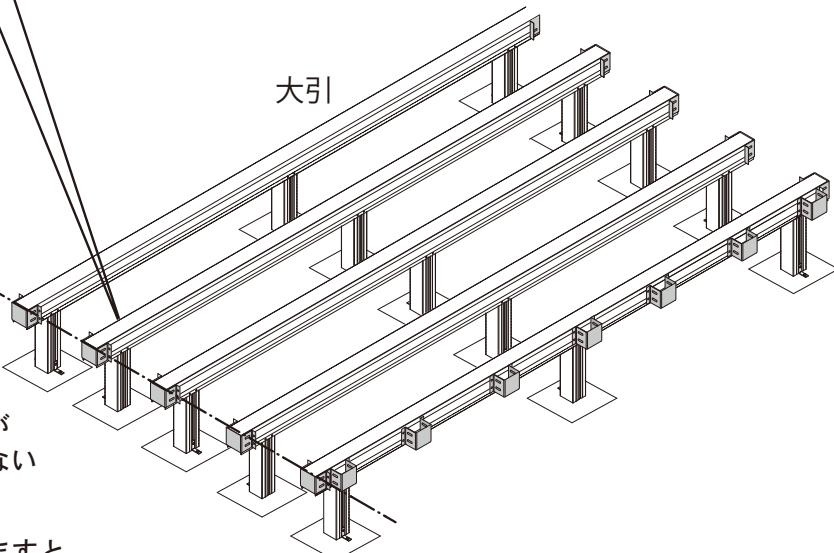
フェンス付は大引の位置がずれると柱が固定できない原因となります。

注意



大引の設置に歪みがありますとデッキの歪みの原因になります。

注意



【5】基礎に束柱を固定します。

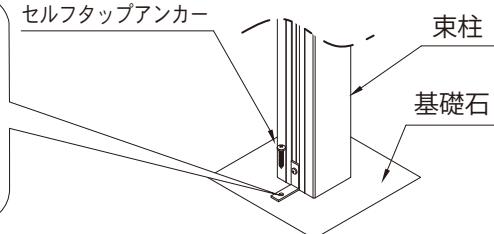
土台にアンカーを取付ける際は、付属のアンカービスをご利用いただくか、もしくは土台の素材に応じてホームセンターなどで、適宜なビスを別途ご用意ください。



下孔をあけてください。



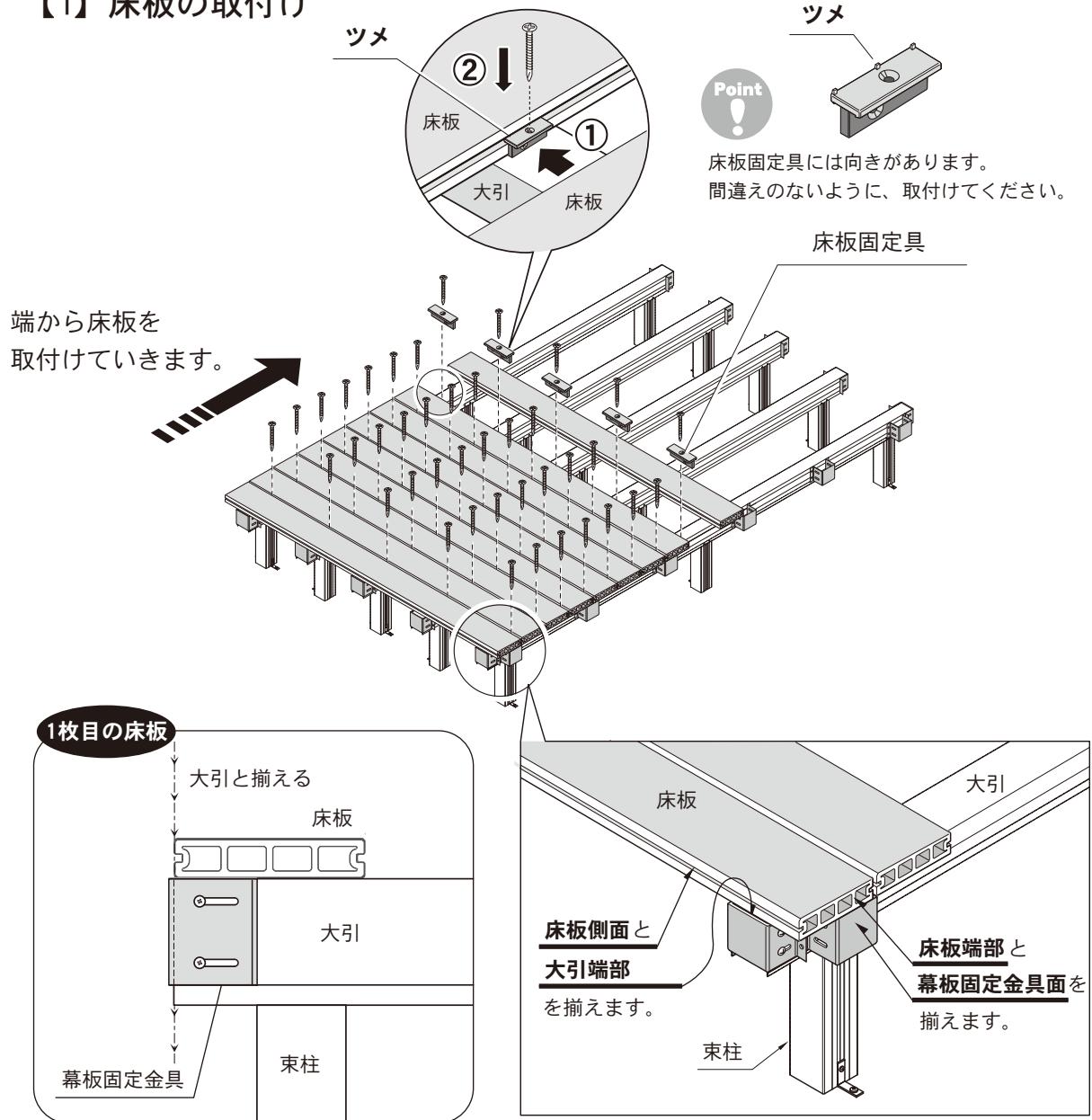
φ5×3.5
セルフタップアンカー



注意

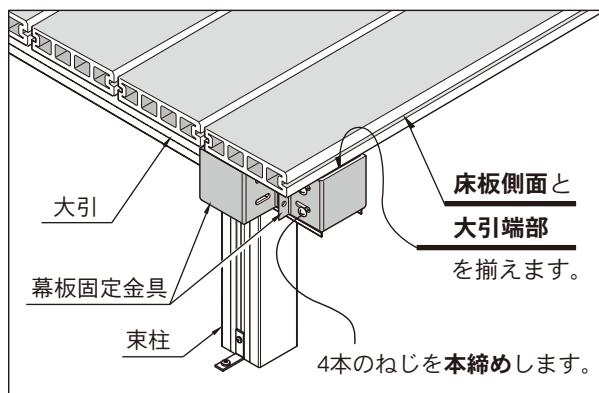
束柱は必ずL字アングルで基礎石に固定してください。固定をしませんとデッキに歪みが発生する恐れがあります。

【1】床板の取付け



【2】最終床板の取付け

最終床板の側面を大引端部と揃えます。

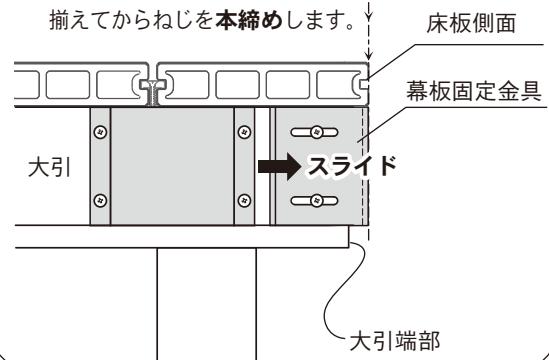


床板側面が大引端部より出る場合は

幕板固定金具をスライドさせて

床板側面と揃えます。

揃えてからねじを本締めします。



幕板取付けの3つのポイント

- ①穴開け ②皿取り ③ねじはゆっくり回す

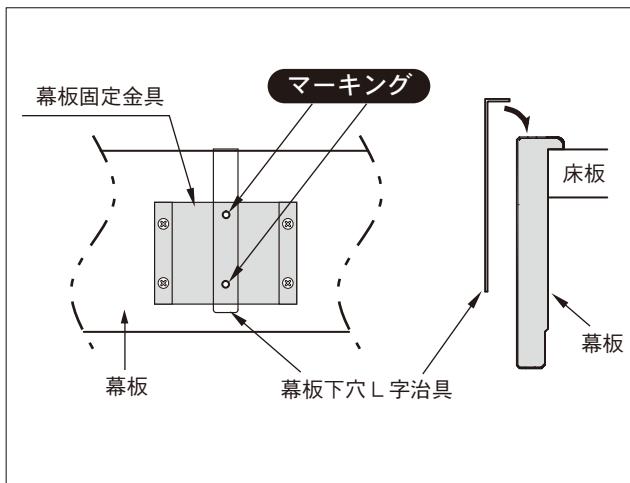


注意

必ず「幕板下穴 L字治具」をご利用ください。穴の位置を間違えますと幕板を固定できなくなりますのでご注意ください。マーキングをして下穴加工をする際には、必ず幕板を **おろして穴加工** をしてください。

【1】幕板マーキング

P 6~14 下段「フェンス付図面」幕板固定ねじ位置を参照して、それぞれの箇所に幕板下穴 L字治具を使いまarksingをします。

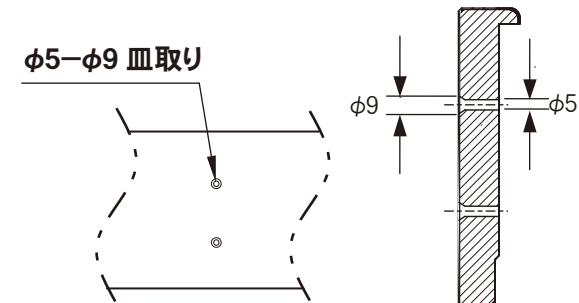


【2】幕板下穴加工

下穴加工をする際には、
幕板をおろして穴加工をしてください。
※下穴は幕板にのみ、あけます。
幕板固定金具にはあけないでください。

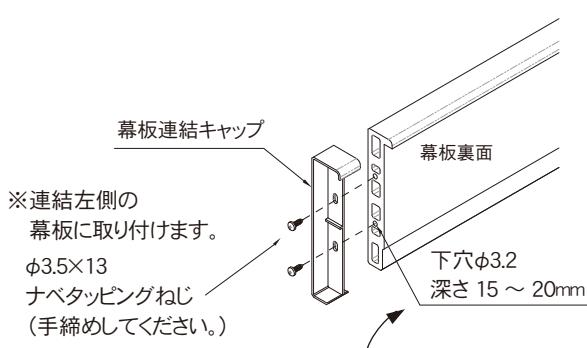
■皿取り加工

φ5~φ9 皿取り



【3】幕板の取付け

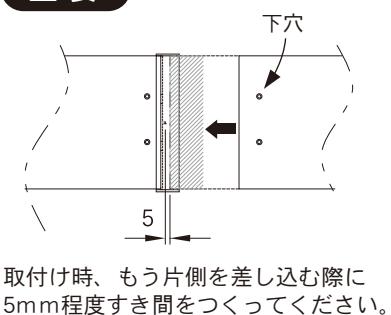
■幕板取付けの前に幕板の連結がある場合は、連結キャップを取り付けます。



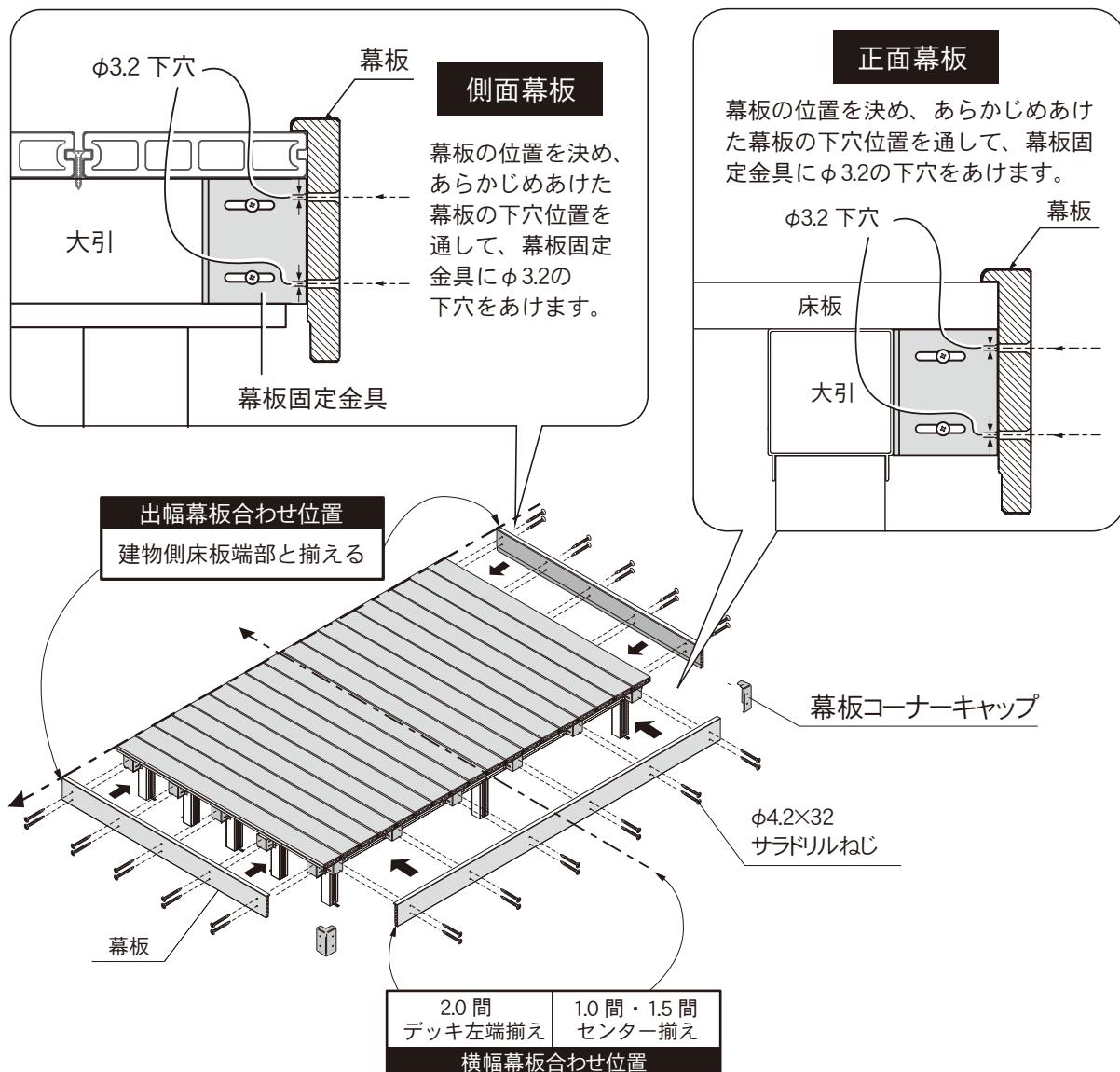
注意

2.0 間サイズは横幅幕板の
連結があります。
P12 ~ P14 の規格寸法図を参照。

重 要



①幕板固定金具に下穴加工をします。

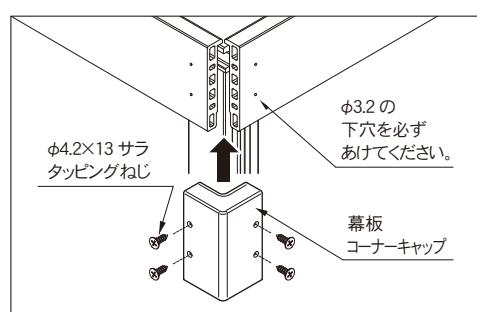


②幕板固定金具への下穴加工が済んだら
幕板を取付けます。



電動ドライバーの力は
弱めでゆっくりと
締めてください。

【4】幕板コーナーキャップの取付け

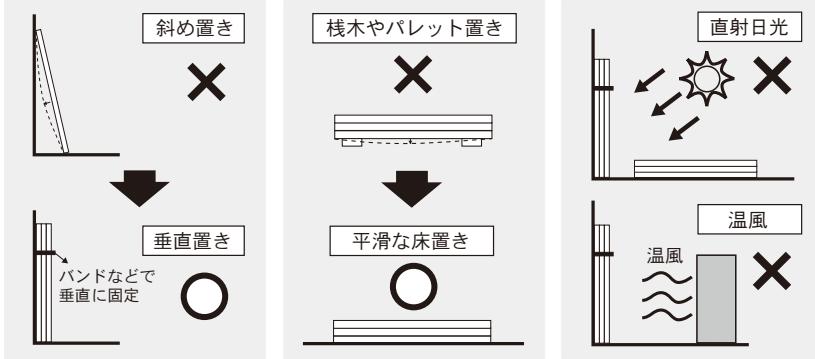


オープンデッキの完成です。

フェンスの取付方法はフェンスに同梱の「取付説明書」をご覧ください。

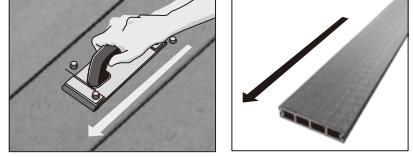
■人工木材の特性と使用上のご注意

必ずお守りください。

加工・塗装について	<p>本製品は通常加工(切断、穴あけ、面取りなど)であれば木材同様の工具が使用可能です。 本製品を長さ方向へ切断しますと、変形する場合がございますので、そのような使用はお避けください。 本製品へのペイント仕上げはお避けください。</p>
温度特性について	<p>本製品は原料に使用している樹脂の特性上、周囲の温度差による影響で若干の伸縮や反りが起きる場合があります。</p>
保管方法について	<p>人工木材は木と樹脂の特性を合わせ持っています。商品の性質上、熱による伸縮や軟化がありますので、取り扱いにおきましては、下記のご徹底をお願いします。 保管・運搬を誤りますと使用に堪えない変形や破損が生じる恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 必ず陽のあたらない平滑な面にねかせるか直角に立て掛けてください。 桟木等にまたがらせての保管はお止めください。● 斜めに立てかけるのはお止めください。● 直接、太陽光のあたる場所での保管はお止めください。● 商品の上に、違う物を乗せるのはお止めください。● 現場での一時保管の場合、シートをかぶせるのはお止めください。● 内部が高温になります。 

その他注意事項	<ul style="list-style-type: none">・日中の日差しが強い時は表面が熱くなる事がありますので、歩行の際は必ず履物を履いてください。特に小さなお子様が使用されている時は十分注意をしてください。・製品の特性上、隙間(目地)をあけての施工をお願いしておりますので隙間に指等を挟まないようご注意ください。・本製品表面に灯油、ガソリン、有機溶剤が付着した場合はすぐに拭きとってください。変形、変色の原因となります。・本製品の上に空き缶や鉄製の物等を置いて、長時間放置しないでください。鉄の錆等でしみができる原因となります。・重量物を置かないでください。やむを得ず短時間だけ置く場合は敷板等を置いて、荷重が分散するようにしてください。・本製品は製造時に発生した粉や纖維状のものが表面に残っている場合があります。天然木のささくれやトゲなどとは異なりますので、刺さったりすることはありません。
----------------	--

■お手入れ方法

汚れについて	<ul style="list-style-type: none">汚れは使用頻度に大きく影響されます。特に工業地、海岸地域、排気ガスの多い場所ではお手入れの回数を増やしてください。汚れが付着した場合は、頑固な汚れになる前に清掃を行ってください。
お手入れの際の注意事項	<ul style="list-style-type: none">ひどい汚れを落とす場合でも、強酸、強アルカリ、シンナーやベンジンなどの有機溶剤、石油類は使用しないでください。洗剤はきれいに洗い流してください。洗剤が残ると変色の原因となります。高圧洗浄機での洗浄も可能ですが、水圧によっては製品の木目加工に影響を及ぼしたり、製品表面に痕が残る場合がありますので影響の無い箇所(製品の端等)で状況を確認してからご使用ください。
お手入れ方法	<p>《通常のお手入れ》</p> <ul style="list-style-type: none">本製品についたごみや埃は、ほうき等で取り除いてください。 汚れている部分は布かスポンジ、デッキブラシ等を使って、水洗いしてください。 <p>《汚れがひどい場合》</p> <ul style="list-style-type: none">中性洗剤を所定の割合まで希釈し、布巾などで部材の長手方向に拭き、水で洗剤をきれいに洗い流してください。 <p>《定期的なお手入れ》</p> <ul style="list-style-type: none">月に1~2回程度の頻度で、柔らかい布やスポンジ等で水拭きをした後に乾拭きしてください。 <p>《しみ》</p> <ul style="list-style-type: none">使用環境によって雨、雪等により、製品表面に部分的なしみが残ることがあります。 <p>◆この現象の対処法</p> <ul style="list-style-type: none">①通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。②散水ホース等を用いて、本製品全体に表面が完全に濡れるように十分散水します。③散水終了後に自然乾燥をしますとしみを目立たなくすることができます。 ※製品表面に水が部分的に残っている場合は必ず乾拭きをしてください。 <p>《カビ》</p> <ul style="list-style-type: none">カビの除去は市販のカビ取り剤をご利用ください。その際、カビ取り剤の使用方法に従い十分注意して使用してください。 <p>《傷・こげ痕》</p> <ul style="list-style-type: none">製品表面についた傷や焦げ痕の除去方法 <ol style="list-style-type: none">通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。傷、こげ痕部分をサンドペーパー(#24~40)で長手方向に擦り、傷、こげ痕を取り除きます。傷、こげ痕を取り除いた後、削粉を清掃します。 <p>※初期の表面と若干異なることがありますので、 お手入れ周辺を含め全体的にばかず感じで作業を行うことがポイントです</p>  <p>長手方向に沿って一方方向にサンドペーパーでこります。</p>

■点検とメンテナンス

◆デッキの場合

デッキ下部の水はけが悪くなることで湿度が高くなり、本製品に悪影響を及ぼす可能性がありますので
《定期的なお手入れ》と併せて、年に3~4回の頻度で点検・メンテナンスを行ってください。

◆点検箇所のポイント

- 水溜りの原因をなくすための目地、隙間、間隔が確保できているか？(目地にゴミ等がつまっているか)
- 下地および排水溝にゴミが溜まっているか？※溜まっている場合は掃除をしてください。
- 換気が悪くなるような物が置かれていらないか？

JJ-WOOD II 商品保証について

保証期間	対象商品	期間：お引渡し日(お届け日)より起算
	本製品	2ヶ年
お引渡し日	年	月 日
お客様	ご住所	
	お名前	様 TEL

- 本書は本製品に関し、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料で保証対応を行うことをお約束するものです。
- 保証期間中に損傷などの不具合が発生した場合においては、お買い上げいただきました販売店、工務店、営業所等にご連絡ください。
- 詳細は下記記載内容をご参照ください。
- お問い合わせの際はお引渡し日（お届け日）、お客様名、施工店名等が判る資料をご用意ください。
- 本書は再発行を致しませんので、大切に保管してください。

旭興進株式会社

〒263-0003 千葉県千葉市小深町108-1

(1) 保証者
旭興進株式会社

(2) 保証期間
本製品お引渡し日（お届け日）から起算して2年間
※施工完了日からではございませんのでご注意ください。

(3) 保証の対象者
本製品のご購入者様

(4) 保証の条件
対象商品：JJ-WOOD II 人工木デッキ
※弊社より提供する部材で全て構成され、戸建て住宅用デッキとして1階に使用

(5) 保証内容
取付説明書に基づいた正しい施工が行われ、適正な使用状態において保証期間内に商品に不具合が発生した場合には、右記に例示する免責事項を除き部材交換の対応をさせていただきます。

※保証対象であっても撤去費用・廃材処分費用・施工費用・施工に必要な道具・資材等は保証対象外となります。
※生産中止となった部材等は類似品をもって代品とさせていただきます。
※新品交換品と既存品は色差が出る場合がございます。

(6) 品質保証の免責事項
保証期間内であっても、次のような場合は有料対応となります。

- ①お客様自身による組立、取付、修理、改造（必要部品の取り外しを含む）に起因する不具合。
- ②取付説明書に記載された組立方法から、逸脱した組立に起因する不具合。
- ③取付説明書に記載された使用方法から、逸脱した使用やお手入などが原因による不具合。
- ④戸建て住宅用デッキ1階以外へ設置
- ⑤本来の使用目的以外とは異なった用途に使用された場合の不具合。
- ⑥建築躯体の変形など商品以外に起因する不具合。
- ⑦商品の経年変化（使用における消耗、摩耗など）や経年劣化（樹脂部分の変質、変色など）またはこれらに伴うサビ、カビその他の不具合。
- ⑧商品周辺の自然環境、住環境、ご利用環境下に起因する商品劣化。
- ⑨天災その他の不可抗力（暴風、暴雨、雪害、高潮、地震、落雷、洪水地盤沈下、火災など）による不具合またはこれにより製品の性能を上回る性能が必要とされた場合。
- ⑩実用化されている商品では予測することが不可能な現象、又はこれらが原因で生じた不具合。
- ⑪動物や鳥、植物などに起因する不具合。
- ⑫犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合。
- ⑬商品の構成の一部であっても、弊社が供給したもの以外の不具合。
- ⑭商品お引渡し年月日、お客様名、販売店などが不明確な場合。

※上記は、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。
保証期間経過後の有料対応につきましてご不明の場合は、ご購入いただいた販売店にお問い合わせください。

販売店名